

グリーンファイナンス・フレームワーク
ひかり味噌株式会社

1. はじめに

ひかり味噌株式会社（長野県諏訪郡下諏訪町 代表取締役社長 林 善博、以下当社）は国際資本市場協会（ICMA）の定めるグリーンボンド原則（GBP）2021、環境省の定めるグリーンボンドガイドライン（2022年版）に基づき、以下の通り、グリーンファイナンス・フレームワークを策定しました。当社は本フレームワークについて、これらの原則等との適合性に関する第三者評価を株式会社日本格付研究所（JCR）より取得しています。

1.1 長期ビジョンにおける SDGs の位置づけ

当社は創業100周年を迎える2036年までの行動指針として長期ビジョン HIKARI100X を制定いたしました。HIKARI100X は、①Mission 企業理念・VISION なりたい姿・Value 私達の価値観を網羅した「HIKARI ピラミッド」、②ブランドメッセージ「自然の恵み、いただきます。」及び、③「SDGs への取り組み」、以上3部の構成となっていて、毎期のPDCAを確立しています。

① SDGs への取り組み、そして ESG 経営へ

当社では風光明媚な長野県に立地して味噌醸造を営むことから、SDGs の目標には重点的に環境関連、資源関連の項目を多く設定しています。また、毎年 SDGs レポートを発行し、環境目標の達成状況から環境影響評価（マテリアルフロー）に至るまでの詳細かつ積極的な情報公開を行っています。

2021年には「ESG 経営に関する基本方針」も制定し、当初制定の SDGs 計画と併行して私達を取り巻く多くのステークホルダーへの説明責任を明確化、強化しています。

② EMS における環境方針

当社は1999年に業界初のISO14001の認証を取得し、以来、環境管理システム（EMS）を継続的に運用しています。当社の環境方針は以下の通りであり、又、環境管理責任者を経営トップ直轄組織として位置づけ、運用、強化を図っています。

1. 地球環境問題の重要性を認識し、持続可能な社会の実現に貢献するため、自ら考え、行動します。
2. 環境に関する法規制やその他の要求事項を順守します。
3. 環境管理システムを運用し、継続的な改善と汚染の予防を図ります。

4. 環境対策として、次の重点管理項目に取り組み、企業の社会的責任を果たします。
 - i CO₂の削減と省エネルギー化の推進
 - ii 適正な排水処理
 - iii 廃棄物の削減と再資源化
 - iv 環境に配慮した商品の開発
5. 社内外に環境情報を開示し、社会とのコミュニケーションを推進します。

③ 当社のSDGsへの取り組み

当社では持続可能な社会の実現に貢献するために次の4項目を重点課題として選定しています。

項目	アクションプラン	目標
01 安心安全なオーガニック商品を通じた環境保全への寄与	オーガニック味噌販売量増とオーガニック商品の拡充により、オーガニックが日常にある食生活を推進	2030年 オーガニック味噌生産量 5,000 t
02 環境に配慮した商品設計と持続可能な資源の活用	味噌、即席みそ汁のパッケージにおいて枯渇性資源である石油由来の原材料の使用を軽減 容器包装、輸送・梱包資材の省資源化 適切に管理された森から生産された木材やパルプを段ボールや紙容器に使用	2030年 石油由来の原材料の使用を軽減したパッケージの商品 100% (自社ブランド) 2030年 持続可能な FSC 認証の資材利用 100% (自社ブランド)
03 ダイバーシティの推進によるジェンダー平等の実現	社員一人ひとりの多様性を認め、生活環境や性別、人種を差別することなく安心して働くことのできる職場環境の整備により、生産性の向上と健康促進を実現	2025年 女性管理職比率 30% 2025年 女性営業職比率 50%
04 食のバリアフリーの実現による健康的な食をあらゆる人に提供	商品開発における食のバリアフリーを意識し、あらゆる人々の豊かで健やかな食生活へ寄与 新商品やリニューアル商品	2025年 減塩・ベジタリアン・ビーガン・グルテンフリー・ハラール対応商品を積極的に拡充 2025年 クリーンラベル商

	において減塩を意識した商品開発を推進	品の拡充（原材料 10 品目以下の加工品） 2025 年 味噌の食文化を発信する SNS・HP・広報誌のユーザー数 2 倍増（2019 年比）
--	--------------------	--

1.2 本投資の方針

2022 年より操業を開始している生産設備では省エネ、省資源、CO₂の排出削減に配慮した生産を行っています。今回の調達により大型味噌熟成庫への投資を行い、味噌熟成品質の向上と安定供給を可能にするとともに、熟成タンクの管理及び入出庫を自動化、完全空調管理設備を備えることで環境目標の達成も目指していきます。

2. 調達資金の使途

2.1 資金使途の概要

本フレームワークに基づき発行するグリーンファイナンスの調達資金は以下の資金に充当いたします。

省エネ性能の高い建築物（飯島グリーン工場の味噌熟成庫）の建設資金・設備資金、もしくはリファイナンス資金	
場 所	飯島グリーン工場
建設・設置内容	味噌熟成庫およびそれに関連する施設
検 収	2022 年 7 月
環境改善効果	CO ₂ 排出量に関して、旧工場対比 40%削減を再生可能エネルギーおよび省エネ施策により実現
CO ₂ 削減策	① 水力発電による CO ₂ フリー電力の採用 ② A 重油から LNG への燃料転換 ③ メタンガスボイラーの利用 ④ 低温外気を利用した冷蔵庫 ⑤ メタンガス発電

2.2 適格性基準

資金充当対象プロジェクトは、当社の審査基準に照らしリスク検証を実施した健全な事業運営が期待できるプロジェクトとし、以下の適格基準を満たすものとする。

- ① 再生可能エネルギー/省エネルギーの施策による温室効果ガス削減効果が30%（旧工場比）を上回っていること
- ② 対象設備の建設・設置にあたり、関連法令及び諸規則を遵守することについて、適用される法令を確認したうえで必要となる手続きが行われていること
- ③ 対象設備の建設・設置にあたり、周辺住民への事前説明を実施していること
- ④ プロジェクトへの投資は、関連するグリーンファイナンス実行日から遡って3年度以内
に実施されたものであること

2.3 資金の調達方法と投資先

調達方法	借入金、社債
投資先	新規投資及び/またはリファイナンス（リファイナンスの場合、ルックバック期間3年を設定）

3. プロジェクトの選定基準とプロセス

3.1 適格プロジェクトの選定プロセス

調達資金の用途となるプロジェクトは当該設備の使用部署である生産本部が、環境方針およびSDGsの重点課題に沿った計画を策定し、環境管理責任者がその整合性を検証、当該設備の建設・導入の管理を行う財務経理本部長が計画の財務的検証を行ったのち、取締役会の確認を得たうえで、代表取締役社長決裁を経て選定されます。

3.2 グリーンプロジェクトが環境に与えるネガティブな影響とその対処方法

① 想定されるリスク

味噌熟成庫の設置に伴う環境および地域へのネガティブインパクト
土砂災害、騒音・振動、光害や、景観等への影響など

② リスク緩和対応

森林法をはじめとする法令及び諸規則を遵守しています。（都市計画法に係る開発許可、森林法に係る林地開発許可、電気事業法に係る保安規定、大気汚染防止法に係る排気規制、水質汚濁防止法に係る排水規制、景観法に係る景観条例、工場立地法に係る新設工場の届出建築基準法に係る建築確認申請、消防法に係る危険物許可申請など、適用されるものにかぎる）またプロジェクト開発にあたっては、地元住民への説明会、工場見学等を行い、理解を求める機会を設けるとともに、当社の

認知度向上のため、年 2 回の地元での味噌販売会や各種イベントへの協力、協賛を実施しています。

③ 適格プロジェクトの選定基準及びプロセスの開示方法

当社ホームページでの公表を予定しています。

4. 資金管理

本フレームワークに基づき発行されるグリーンファイナンスの調達資金の充当と管理は当社の財務経理本部が行います。調達した資金は調達から 6 カ月以内を目途として、あらかじめ選定されたプロジェクトに全額充当されます。この資金が適正に充当されたかどうかは税理士法人の月次監査で確認されます。調達資金の充当が決定されるまでの間、その資金は現金または現金同等物にて管理し、その内容を貸付人に開示いたします。

5. レポーティング

本フレームワークにより発行されるグリーンファイナンスの調達資金は調達後、6 カ月に以内に全額充当予定であり、その充当状況については当社ホームページ上で開示いたします。また、当社は当該グリーンファイナンスの残高がある限り、環境改善効果の指標として、全社の CO₂排出量を当社のホームページもしくは SDGs レポートで開示してまいります。